

立ち退き避難時の心得

1. 非常持ち出し品を準備しておきましょう

避難所の備蓄品には限りがあり、高齢者や身体の不自由な人、乳幼児などへ優先的に配布されますので、自らが十分な準備をすると安心です。非常持ち出し袋には、両手の空くリュックサックが便利です。重すぎないかどうか、いちど背負ってみましょう。

■あまり重いと避難行動に支障がでるので、重すぎる場合は減らしましょう。

■水を注ぐだけで簡単にできる、比較的軽い乾燥食品などを用意しましょう。

■各自に1つのリュックを用意し、それぞれ持ち出しやすい場所に分散して保管しましょう。

男性15kg
女性10kg

程度が重さの目安です



非常持ち出し品チェックリスト

食料関係

- 飲料水 (1人1日3リットル程度)
- 缶詰
- カップラーメン
- 乾パン・クラッカー
- レトルト食品
- 粉ミルク (赤ちゃんがいる場合)

救急薬品・常備薬

- 消毒薬
- 解熱剤
- 胃腸薬
- かぜ薬
- 体温計
- 絆創膏
- 目薬
- 鎮痛剤
- 包帯
- ガーゼ
- 持病のある人は常備薬

安全対策

- ヘルメット
- 軍手
- 底の厚い靴

衣類関係

- 衣類・下着
- タオル
- 雨具
- 寝袋
- 毛布

貴重品

- 現金
- 貯金通帳
- 印鑑
- 健康保険証
- 身分を証明するもの
- 有価証券などの権利証券

日用品

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 予備の電池
- 生理用品
- 紙皿・紙コップ
- ナイフ・缶切り・栓抜き
- 筆記用具
- ブルーシート
- 使い捨てカイロ
- ロープ
- マスク
- ほ乳ビン・紙おむつ (赤ちゃんがいる場合)
- なべ・水筒
- 大きいゴミ袋・ビニール袋
- キッチン用ラップ
- 卓上コンロ・ガスボンベ
- 割りばし
- ティッシュ・ウェットティッシュ
- マッチ・ライター・ろうそく

2. 避難先・避難ルートを確認しておきましょう

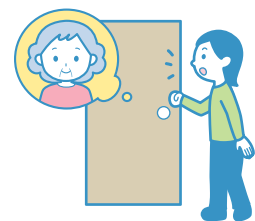
浸水に対して安全な避難先と避難ルートを、平時から家族や地域で確認しておきましょう。避難先は必ずしも市が準備した避難所である必要はありません。親戚宅、知人宅、職場なども避難先の選択肢になり得ます。

3. 避難の方法を確認しておきましょう

自家用車での避難は、緊急自動車の通行を妨げるとともに、交通渋滞を巻き起こしますのでやめましょう。どうしても自家用車での避難をしたい場合は、さらに早めの避難開始が重要です。

5. ご近所に声をかけましょう

単独での避難は、思わぬ事態にあったときに危険です。避難する前に隣近所に声をかけ、集団での避難を心がけましょう。



4. 早めの避難を心がけましょう

浸水してからの自宅外避難は危険です。市は降雨や河川水位などの情報をもとに避難勧告等の発令により避難を呼びかけますが、身の危険を感じたら自主的に避難を開始してください。避難する際には、避難所が開設されているかを確認してから避難しましょう。

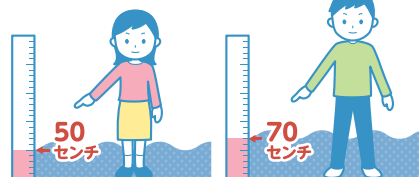
6. やむなく浸水の中を歩かなければならないときの注意

長靴や裸足は禁止です。運動靴をはきましょう。



歩ける深さの目安は男性で70cm、女性で50cmまでです。それ以上は救助を待ちましょう。

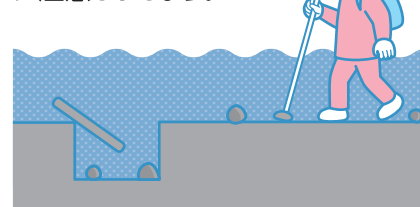
※水深が浅い場所でも流れが速い場合は、非常に危険です。



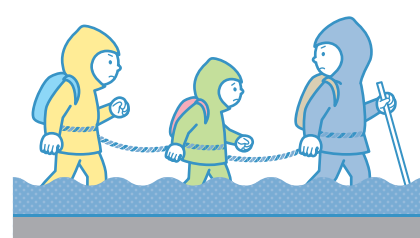
高齢者や身体の不自由な人などは背負って避難しましょう。



長い棒をつえ代わりにして、水の中の障害物に注意しましょう。



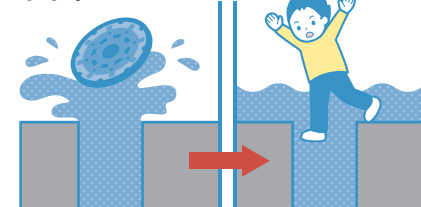
はぐれないようお互いの身体をロープで結んで避難しましょう。



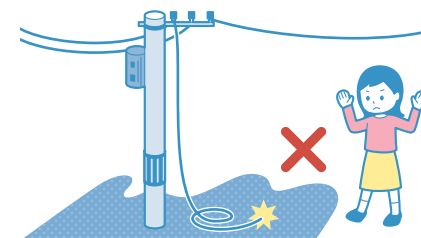
幼児は浮き袋やベビーバスなどが便利です。



深い浸水だとマンホールに気づかず、吸い込まれてしまう場合があります。



切れた電線など、危険な場所には近寄らないようにしましょう。



はん濫による水は汚水が混ざっているため、むやみにさわらないようにしましょう。



大雨や台風の接近により自宅から避難する時、持って行くべき物を確認しましょう。

避難所は身の安全を確保する場所です。避難に必要な物は自分で持ち込みましょう。

台風などによる半日～1日程度の避難の場合

■食べ物はずっと持っていきましょう！

- 避難が必要な期間に自分が食べるだけの食料(おにぎり・弁当・パン・インスタント食品・缶詰・お菓子など)は、自分で持っていきましょう。
- 台風が近づく前に食料を買っておきましょう。
- 水分は多めに用意しておきましょう。

■その他必要な物も確認しましょう！

- 食料の他、自分に必要な物(寝袋、アイマスク・携帯ラジオ・懐中電灯・乾電池・モバイルバッテリーなど)も持っていきましょう。
- 夜を明かさなければならぬ場合も考えて、睡眠を快適にするグッズの準備も検討しましょう。
- 持病をお持ちの方は、お薬を忘れずに！

7. 市指定の避難所での注意

水害時に開設される市指定の避難所では、不特定多数の人々が一定期間滞在することとなります。大声を出したり騒いだり他人が不快に感じるような言動は控えましょう。互いの気遣いが大切です。

ペットと同行避難する場合には、ケージなど必要な資材やペットフードはできる限り持参しましょう。また、避難所では他の避難者の迷惑とならないよう自分のペットの管理をしましょう。

8. 地域で協力を

高齢者や身体の不自由な人など、避難に時間を要する人については、避難準備・高齢者等避難開始などを参考にして早めに避難するようにしましょう。

普段から地域で情報を交換し、いざというときには協力し合い、豪雨災害による犠牲を防ぎましょう。